

石崎町カイヤーズ全国青年大会で初優勝

～メンバーの友情がさらに深まる～



11月27日(火)：七尾市役所

石崎町の青年団で野球チームを組織する「石崎町カイヤーズ」。11月、東京都で行われた第61回全国青年大会体育の部軟式野球に出場。軟式野球の石川県チームでは、初優勝となる快挙を成し遂げた。3日間にわたり、全国の強豪と4試合を戦い、決勝戦では、新潟県第一チームを8対1で下し栄冠に輝いた。監督兼選手の中西陽(よう)さんは「自分たちのペースで野球ができた。来年も優勝を目指す」と抱負を話した。大会を通してメンバーの友情がさらに深まったのでは。

加藤登紀子「能登の夢」CD制作発表

～能登を全国に発信～

11月29日(木)：七尾商工会議所

能登の自然の美しさと、そこで生きる人々の心の温かさを歌にした「能登の夢」。歌詞は「能登はやさしや土までも」と始まり、能登ののどかな風景と人の優しさが表現されている。「能登の里山里海」が世界農業遺産に認定されたことを記念して、その歌を歌手の加藤登紀子さんが歌い、CDとして販売されることになった。加藤さんは「能登を訪れたときに、地域の伝統が息づいていることが体に伝わってきた」と能登への思いを感慨深く話してくれた。この曲を通して、能登を全国に発信してほしい。

※11ページに関連記事掲載



ふるさと伝統芸能子ども発表会

～迫力満点の演技を披露～



12月2日(日)：七尾サンライフプラザ

全13小学校の児童が、古くから伝わる子ども木遣りや獅子舞、太鼓など迫力満点の演技を披露。生まれ育った地域に愛着を深め、誇りを持ってもらうことが目的。会場は保護者などで満員となり、子どもたちは緊張した面持ち。しかし、日頃の練習の成果を披露する晴れの舞台とあって、演技が始まると一心不乱に演じていた。会場からは情熱あふれる演技に温かな拍手が送られた。児童は、伝統芸能を学ぶことで、生まれ育った地域の良さを感じたはず。



11月27日(火)：山王小学校

目が不自由な人の気持ちを理解し、他人を思いやる心を育てる目的で行われた福祉体験。児童は、目が不自由な人の役と、ガイド役に分かれ階段を上り下りした。目が不自由な人の役は、ガイド役のひじを握りながら不安そうに歩いていたため、ガイド役が、安心して歩けるように一声かけていた。杉岡ひかりさんは「何があるかわからなくて、歩くのが怖かった」と感想を話した。児童は、福祉体験から相手を思う気持ちの大切さを学んだ。

小学生が福祉体験

～相手を思う気持ちを忘れない～



11月26日(月)：七尾市役所

俊友会合唱団が、定期演奏会で集まった義援金を不嶋日本赤十字社七尾市地区長に手渡した。義援金は、東日本大震災の復興に役立ててほしいとの願いが込められている。11月に行われた第16回定期演奏会のテーマは「私は信じる」。メンバーは、世の中を信じ、東日本大震災も必ず復興すると信じて歌った。代表の橋屋愈（まさる）さんは「演奏会で快く寄付をしてくれる人が多かった」と達成感を感じた表情で話してくれた。

東日本大震災復興に義援金を寄付

～復興の輪が広がる～



12月8日(日)：ザンピーム目利和ヶ丘

子どもたちに、クリスマスや冬にちなんだ絵本の読み聞かせなどを楽しんでもらおうと、田鶴浜図書館が企画。パネルに絵を貼ったり、外したりして話を進めていくパネルシアターを披露。子どもたちは、絵本とは違った動きのある絵を食い入るように見ていた。そのほか、クリスマスソングに合わせて子どもたちは手拍子をして楽しんでた。おはなし会を通じて図書館に親しみ、本を読む楽しさを発見したのでは。

クリスマスミュージックおはなし会

～和やかな雰囲気にもまれる～



11月29日(月)：中島小学校

児童は「能登和倉万葉の里マラソン2013」を盛り上げるため、のぼり旗とスティックバルーンの応援グッズを制作。みんながスティックバルーンにカラーペンで「気合いだ」「最後までがんばれ」などを力強く書いた。ある児童はのぼり旗に「ツインブリッジのと」の絵を描いて、見る人を楽しませるように工夫していた。児童たちは「また作りたい」「書くのが楽しかった」などと笑顔で話した。ランナーに、児童たちの心を込めた応援が届くのでは。

能登和倉万葉の里マラソン2013応援メッセージ制作

～心を込めた応援～



12月11日(火)：東みなと保育園

東湊小学校の4年生が東みなと保育園を訪れ、園児との交流を通して相手への思いやりを学んだ。床にボールを転がす「ころがしドッチボール」では、小学生と園児の混合で4チームを作り、勝敗を競い合った。ボールを園児に投げさせたり、園児が転がしたボールに小学生がわざと当たったりと、園児を楽しませていた。また、一緒ににぎやかな食事の時間を過ごした。交流を通して、児童は相手への心配りが身についたのでは。

小学生と保育園児の交流

～相手思いやる心の大切さ～



12月11日(火)：おっとほーむ若葉

家族や大勢の施設入所者が集まり、スミさんの誕生日会が行われた。7人兄弟の長女として生まれ、農業をしながら、5人の子どもを育ててきた。約2年前に施設に入所。日常生活は、入所者とともにレクリエーションを楽しんでいる。次男の榮光さんは「頑固で働き者。とにかく頑張り屋な人です」と話した。大勢の入所者にお祝いしてもらったスミさんは、終始穏やかな表情だった。100歳の誕生日おめでとうございます。

100歳誕生日おめでとうございませす

～受川スミさん～